

春の里山を彩る薄紫の絨毯

じゅうたん

森吉山麓・カタクリ群生地で

春の女神・ヒメギフチョウも



吸蜜するヒメギフチョウ



森吉山中腹の雑木林で



ミズナラなどの雑木林の林床で春のうららかな日差し浴びながらうつむくように咲くカタクリの花。その可憐さから「春の妖精」とも呼ばれるユリ科の多年草です。

＊ ＊

市内でも各地域に大小の群落があり、とりわけ森吉山麓では2ヘクタールを超える群生地が確認されています。いずれも、日当りのよい落葉広葉樹林の中。植生が変わり、笹やスギなどの常緑樹に覆われると、姿

を消してしまいます。また、フクジュソウなどと同様、春先のほんの一時にしか姿を表さない植物群であることから、英語ではカゲロウのようにはかない生き物を意味する「スプリング・エフェメラル」とも呼ばれ、カタクリはその代表格です。

カタクリの花は下向きに咲く姿が印象的ですが、常に反り返っているのではなく、朝や雨のときはラッパ状にまですばまっており、天気の良いときにはあまり開きません。

＊ ＊

カタクリの開花と同時に姿を見せるのがヒメギフチョウ。『春の女神』とも呼ばれるこの蝶は、アゲハの仲間を羽を広げた大きさは5〜6センチほど。このチョウは、ウスバサイシンという多年草に卵を産みつけます。卵は10日ほどで孵化し、幼虫はウスバサイシンを食べて、6月頃サナギになります。サナギは夏、秋、冬の永い眠りの後、翌年の早春に羽化します。

＊ ＊

カタクリもヒメギフチョウも、環境の変化や乱獲から生息数が激減しているといわれています。いずれも自然の中にある貴重な命。遠くからそっと見守りたいものです。